Q 農業施策実現の支援は
A 滝沢地域ブランド力を

日向　清一 議員（春緑クラブ）

Q1 安全・安心な食料を供給し、生産者の所得の向上をめざして、経営を維持するために、村として、第五次総合計画の柱である「産業が元気なまちをつくる」ために今後どのような支援策をお考えか伺います。

滝沢の特産であるりんごを、産地としてどのように振興し、推進をはかるかその具体策を伺います。

▲改植がすすむリンゴわい化栽培

A1 りんごの品質向上等に伴う産地としての知名度上昇の効果やりんご栽培、販売等に伴う雇用の創出・加工品製造による付加価値のついた商品開発など農商工連携の取組みを図ってまいります。

りんご産地としての拡大・振興を図っていくためにも、今後「滝沢産りんご」といったような「滝沢地域ブランド力」の強化・推進に努めます。

具体的には滝沢村で育ったりんごの優良品種である新品種「はるか」の生産拡大を図ります。

「はるか」の苗木導入の補助により、品質の高いりんごの生産をしていただき「滝沢りんご」のブランド力を高め村内産りんご全般の有利販売を実現することで、農家所得の向上とりんご産地の振興・生産拡大を図ってまいります。

Q2 グリーンツーリズムの取組みと推進の具体策をどのように考えているか伺います。

A2 グリーンツーリズムは自然に親しむ活動として幅広く取り組まれておりますが、滝沢村の雄大な自然と農家の創意工夫によって都市居住者と農家が触れ合うことにより魅力ある地域資源の活用や、農業体験やそばうち体験・田植え体験・酪農体験など、ふれあいによってそのすばらしさを体験し、自然を大切にしてもらえるものと期待しております。

現在村内には13名がインストラクターとして登録されております。ホームページの紙面に体験できる箇所を掲載し、一般の人に対するPRを行っております。

また、今後インストラクターの養成をはかるために、予算措置し積極的に進めてまいります。

ネットワークが必要であり、組織化をはかる必要があると考えますので、研究会・協議会などの結成を図るなどの、活動支援を行ってまいります。

Q 幼児期から自然体験を
A 里山制度も有効な手立

佐藤　澄子 議員（春緑クラブ）

Q1 緑は将来にわたって残していかなければならない大切な財産です。地球温暖化などの環境負荷を軽減するためにも、生態系の豊かな雑木林や生き物の生息空間の保全に向けて、子どもから大人までの住民一人ひとりの理解や協力が必要とされています。

滝沢村環境基本計画の施策においても、様々な取り組みが展開されておりますが、特に期待したい部分は子どもたちの活動を重視した取り組みです。滝沢村の自然を守るという気持ちを子どもの頃から多様な自然体験をとおして育てていくことが将来の環境保全に向けて大きな力になるものと捉えると、より効果的な展開が求められます。

里山は手をつけずにそのまま放置すると自然の遷移により植生などが変化し多様な生態系が失われることになるため、適正な保全が求められて来ることから、自然を守り、親しむ里山制度も環境保全に有効と考えますがその考えと取り組みは。

▲学習林で自然と友達

A1 里山制度については、「住民参加の森林づくり」として、「里山オーナー制度」を行っている県や市町村自治体、森林組合、NPO等があります。

この制度で対象とする里山林は、誰でも取り組める里山の活用・保全ということであり、立地が良いことを条件としているのが一般的であるために村内には場所がなかなか見当たらないところであります。

里山制度について取り組むことは考えておりませんが、森林作りを通じて環境保全に対する意識が高まることは意義のあることですので、提言があれば研究する価値があるものと考えています。

Q2 たきざわ自然情報センターなどの関連施設の有効活用は。

A2 センターの目的の一つに自然・観光・文化等の情報提供を掲げています。鞍掛山などの登山者、相の沢キャンプ場の利用者や観光客に対し自然がもたらす効果や自然を守り育む心、自然との共生など環境保全への意識啓発、提唱、実践の場として取り組んでいきます。